

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 佐野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ジェイアールバス関東(株)	【田沼葛生線】 佐野駅～葛生駅南バス回転場	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、沿線の商業施設に停留所を設置した。また、沿線住民のニーズを受け、運行経路と停留所の見直しを実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B ・1日あたりの利用者数【目標】70人→【実績】80.7人 ・収支率【目標】20.0%→【実績】14.7% 新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復したことが利用者数の増加につながったものと考えられる。収支率は前年(=約8%程度)と比べて増加しているが目標値には届かなかった。	通院に限らず、中心・地域市街地での買い物利用客を獲得するため、目的別に利用方法を提案するなど、市民へのPRを検討していく。
ジェイアールバス関東(株)	【運動公園循環線】 佐野駅～運動公園～佐野駅	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、国体等、沿線で行われるイベント来訪者の獲得を図るため、直行系統を新設した。また、沿線高校への通学利便性の向上を図るため、ダイヤ改正を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・1日あたりの利用者数【目標】70人→【実績】80.3人 ・収支率【目標】20.0%→【実績】29.4% 通学利用の増加、新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復したことが利用者数の増加につながったものと考えられる。	学生利用が多いので、引き続き学生を中心に新規利用者獲得を目指す。また沿線のスポーツイベント時の移動手段として利用者獲得を目指す。
ジェイアールバス関東(株)	【犬伏線】 佐野駅～佐野新都市バスターミナル	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、市内の高校と連携し、通学利用者の獲得を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・1日あたりの利用者数【目標】30人→【実績】49.2人 ・収支率【目標】20.0%→【実績】24.0% 新型コロナウイルスの影響で減少した需要が回復したことが利用者数の増加につながったものと考えられる。	医療機関や大型商業施設へ向かうために利用する高齢者が多いので、利用しやすい運行ダイヤを検討する。

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐野交通㈱	【葛生エリア】 秋山町ほか12町	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、利用者や運行会社からニーズ等の情報を収集し、商業施設を乗降箇所として追加した。また、ケーブルTVを活用して利用方法や行先などをPRした。	C 事業が計画に位置付けられたとおり、実施されなかった。	C ・一日あたりの利用者数【目標】30人→【実績】21.4人 ・収支率【目標】10.0%→【実績】7.3% デマンド交通の周知不足や乗合率が低いことが影響し目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上が課題。「バスの乗り方教室」を実施し、デマンド交通について周知を進める。また、学生の利用者数の増加を図るため、長期休業中のワンコイン乗車制度を実施する。
佐野合同自動車㈱	【田沼エリア】 作原町ほか12町	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、利用者や運行会社からニーズ等の情報を収集し、医療機関や企業を乗降箇所として追加した。また、ケーブルTVを活用して利用方法や行先などをPRした。	C 事業が計画に位置付けられたとおり、実施されなかった。	C ・一日あたりの利用者数【目標】30人→【実績】26.8人 ・収支率【目標】10.0%→【実績】6.0% デマンド交通の周知不足や乗合率が低いことが影響し目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上が課題。「バスの乗り方教室」を実施し、デマンド交通について周知を進める。また、学生の利用者数の増加を図るため、長期休業中のワンコイン乗車制度を実施する。
赤見タクシー(有)	【赤見エリア】 赤見町ほか3町	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、利用者や運行会社からニーズ等の情報を収集し、商業施設を乗降箇所として追加した。また、ケーブルTVを活用して利用方法や行先などをPRした。	C 事業が計画に位置付けられたとおり、実施されなかった。	C ・一日あたりの利用者数【目標】10人→【実績】5.5人 ・収支率【目標】10.0%→【実績】3.6% デマンド交通の周知不足や乗合率が低いことが影響し目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上が課題。「バスの乗り方教室」を実施し、デマンド交通について周知を進める。また、学生の利用者数の増加を図るため、長期休業中のワンコイン乗車制度を実施する。
旭タクシー㈱	【佐野南部エリア】 村上町ほか8町	移動の目的をつくるべきという評価結果を受け、利用者や運行会社からニーズ等の情報を収集し、4町から8町にエリアを拡大し、医療機関を乗降箇所として追加した。また、ケーブルTVを活用して利用方法や行先などをPRした。	B 事業が計画に位置付けられたおりに実施されていない点があった。	C ・一日あたりの利用者数【目標】5人→【実績】4人 ・収支率【目標】10.0%→【実績】2.7% デマンド交通の周知不足や乗合率が低いことが影響し目標値を下回ったと考えられる。	乗合率の向上が課題。「バスの乗り方教室」を実施し、デマンド交通について周知を進める。また、学生の利用者数の増加を図るため、長期休業中のワンコイン乗車制度を実施する。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>運行経路や停留所の見直しなどの取組は評価できるが、複数の系統でデマンド交通の一日あたりの利用者数の目標は未達成となった。しかし、大幅に目標値を上回った系統もあり、引き続き利便性向上の取組をされることを期待したい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月23日

協議会名: 宇都宮市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

<p>【参考】</p> <p>1. 目標・効果</p> <p>●目標</p> <p>・1回あたり平均乗車人数 2.0人/回</p> <p>・自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合以上</p> <p>●効果</p> <p>・公共交通空白地域の解消</p> <p>・高齢者等の通院、買物などの移動手段の確保</p> <p>・路線バスや鉄道との連携による広域的な移動利便性の向上</p>	<p>2. 評価の考え方</p> <p>●事業実施の適切性の評価の考え方</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった。</td> </tr> </table> <p>●目標・効果達成状況の評価の考え方</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>1回あたりの平均乗車人数が2.0人を上回った。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>1回あたりの平均乗車人数が2.0人を下回ったが、自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合を上回った。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1回あたりの平均乗車人数が2.0人を下回り、かつ、自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合を下回った。</td> </tr> </table>	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。	C	事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった。	A	1回あたりの平均乗車人数が2.0人を上回った。	B	1回あたりの平均乗車人数が2.0人を下回ったが、自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合を上回った。	C	1回あたりの平均乗車人数が2.0人を下回り、かつ、自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合を下回った。
A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。												
B	事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。												
C	事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった。												
A	1回あたりの平均乗車人数が2.0人を上回った。												
B	1回あたりの平均乗車人数が2.0人を下回ったが、自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合を上回った。												
C	1回あたりの平均乗車人数が2.0人を下回り、かつ、自治会加入世帯数に占める利用登録世帯数の割合が、当該地区人口に占める後期高齢者(75歳以上)の人口の割合を下回った。												

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
泉タクシー(株)	<p>区域運行: 国本地区(全域)</p> <p>運行日: 月曜～土曜</p> <p>運行時間帯: 8時便～18時便</p> <p>運賃: 300円</p> <p>(小学生: 150円, 未就学児: 無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。</p> <p>・PR活動の実施などの利用促進を図った。</p> <p>・特に、高齢者外出支援事業の回数券販売促進においては、更新時の利用登録申請書を送る際に、利用者の興味が湧くような色使いや理解しやすい表現を使った案内書を送付するとともに、地域行事に合わせて配布するなど、積極的なPR活動を実施した。</p> <p>・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>【目標】</p> <p>・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.7人であった。</p> <p>【効果】</p> <p>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。</p> <p>・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、利用促進策にも取り組んでいく。</p> <p>・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。</p> <p>・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。</p> <p>・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。</p>
泉タクシー(株)	<p>区域運行: 篠井地区(全域)</p> <p>運行日: 月曜～土曜</p> <p>運行時間帯: 8時便～18時便</p> <p>運賃: 300円</p> <p>(小学生: 150円, 未就学児: 無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性向上を図った。</p> <p>・PR活動の実施など利用促進を図った。</p> <p>・特に、運転免許証返納者に対する回数券の配布を行うなど利用促進策を実施した。</p> <p>・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>【目標】</p> <p>・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.5人であった。</p> <p>・後期高齢化率18.7%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、24.1%であった。</p> <p>【効果】</p> <p>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。</p> <p>・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・利用登録率・後期高齢化率がともに高い地区であり、固定の利用者による通院利用が中心となっているため、高齢単身世帯をターゲットとした利用促進などに取り組んでいく。</p> <p>・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。</p> <p>・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。</p> <p>・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。</p>

<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:富屋地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性向上を図った。 ・PR活動の実施など利用促進を図った。 ・特に利用促進チラシを作成し、自治会回覧で配布するなど、利用促進策を実施した。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.9人であった。 ・後期高齢化率22.2%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、25.0%であった。</p> <p>【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・高い登録率を維持していることから、実利用者が少ない自治会をターゲットとした周知や利用促進に取り組むなど新たな利用者の拡大を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。</p>
<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:上河内地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や、年4回発行の地域広報誌にて特集ページを設けるなどの利用促進を図った。 ・特に、梵天の湯と氏家駅の行き来に限り地域外の方も利用可とする取組により、運行効率を維持しながら、利用者数の獲得に大きく寄与した。 ・ICカードシステム導入の際には、利用者からの問い合わせに対応できるよう、運営協議会内で勉強会を実施した。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.6人であった。 ・後期高齢化率13.7%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、12.3%であった。</p> <p>【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・路線バスや鉄道との接続が優れていることから、公共交通の乗り継ぎについて、「乗継割引制度」や「上限運賃制度」と合わせた周知に取り組むことで、利用登録の拡大に努める。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。</p>
<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:平石地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を行った。 ・特に、地域内交通の交通ICカードシステム導入の際には、地域住民向け説明会を開催するとともに、地域広報紙を地区内に全戸配布するなど、理解促進を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.8人であった。 ・後期高齢化率13.5%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、18.7%であった。</p> <p>【効果】 ・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・引き続き、PR活動に積極的に取り組むことで、利用登録の拡大を目指すとともに、実際の利用につながるよう、利用促進策を検討していく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。</p>
<p>泉タクシー(株)</p>	<p>区域運行:石井地区(一部) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:9時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)</p>	<p>・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・地域広報紙や自治会回覧、チラシを車内に掲示するなど積極的にPR活動を積極的に実施した。 ・特に、地域内交通の交通ICカードシステム導入の際には、地域住民向け説明会を開催するとともに、婦人会でも説明機会を設けるなど理解促進を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.4人であった。 ・後期高齢化率17.3%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、16.9%であった。</p> <p>【効果】 ・商業施設や公共施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。</p>	<p>・新規の利用登録が見られるとともに、利用者数も増加しているが、乗車率が未だ低いことから、新たな利用者の掘り起こしに努めるとともに、利用の定着につながるよう利用促進策を検討する。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。</p>

アサヒタクシー(株)	区域運行:横川地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動を実施するなど利用促進を行った。 ・特に、ポイントカードなどの地域独自の利用促進策を実施するなど、利用の拡大を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.2人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、利用促進策にも取り組んでいく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。
アサヒタクシー(株)	区域運行:河内地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～18時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・特に、利用登録の際は、高齢者等交通弱者に地区市民センターまでお越しただかなくても、単位自治会長を窓口として登録することができるルールを周知・定着させるため、「申請手順マニュアル」や「地域内交通Q&Aチラシ」を作成し、自治会長会議や自治会回覧を活用しながら配布を行った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.3人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、利用促進策にも取り組んでいく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。
アサヒタクシー(株)	区域運行:豊郷地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施や地域行事日に合わせて運行を行うなど利用促進を図った。 ・特に、運転免許証返納者に対する回数券の配布を行うなど利用促進策を実施した。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.2人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、利用促進策にも取り組んでいく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。
アサヒタクシー(株)	区域運行:清原南部地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～17時 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・特に、老人会などの地域の集会において、利用促進チラシを配布するなど、利用促進策を実施した。 ・新たに対象自治会を追加し、利用者数の獲得を図った。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.2人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。	・引き続き、PR活動に積極的に取り組むとともに、利用促進策にも取り組んでいく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。

(有)雀タクシー	区域運行:雀宮地区(一部) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時便～17時便 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・特に、未導入自治会の広報誌に地域内交通の紹介ページを盛り込むことで導入自治会の増加を促した。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、2.4人であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。	・順次、導入自治会が追加されており、今後も引き続き、導入自治会の拡大を進めていくとともに、積極的なPR活動の実施など利用者の拡大に繋がる利用促進を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。
矢野自動車(株)	区域運行:姿川地区(全域) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～17時 運賃:300円 (小学生:150円,未就学児:無料)	・既存公共交通との適切な役割分担を考慮しながら、目的施設を追加するなど地域ニーズを運行計画へ反映し、利便性の向上を図った。 ・PR活動の実施などの利用促進を図った。 ・特に、地区の広報紙への記事の掲載や登録世帯あてに利用案内や登録施設一覧を配布するなど、新規利用者の獲得に向けたPR活動を実施した。 ・コロナ禍においても、交通事業者と連携しながら、空気清浄器や車内シールドなどの導入で利用者の不安の払拭を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C	【目標】 ・1回あたりの平均乗車人数2.0人に対し、1.9人であった。 ・後期高齢化率13.2%に対し、自治会加入世帯に占める登録世帯数の割合は、7.1%であった。 【効果】 ・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅や路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要にも対応している。 ・買物、通院だけでなく、高齢者の生きがいづくりや健康づくりにも寄与している。	・自治会加入世帯数に対して、若年層の利用登録が少ないことから、若年層をターゲットにしたPR活動を実施するなど、新たな利用登録世帯や実利用者の獲得に向けた利用促進を図っていく。 ・交通事業者と連携しながら、車内消毒の徹底や空気清浄機などの導入など、感染拡大防止に向けた車内環境の整備に取り組み、利用者の不安の払拭を図っていく。 ・既存公共交通との適切な役割分担のもと、地域内交通が路線バスやLRTなどと快適に乗り継げるよう、乗り継ぎポイントとなるバス停への上屋設置など、乗り継ぎ環境の整備に取り組むことで、更なる利用促進を図っていく。 ・令和4年9月に導入した「地域内交通の交通ICカードシステム」や「バスと地域内交通との乗継割引制度」の周知・徹底に努め、更なる利用拡大を図るとともに、予約配車システムの導入で利用者の利便性の向上や運行の効率化を図っていく。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	目的施設の追加による利便性向上や、積極的なPR活動などに取り組み、複数の系統で1回あたりの平均乗車人数の目標を達成されたことを評価する。一部の系統で目標未達成となったが、前年度と比較し増加したか横ばいである。引き続き、利便性向上や周知活動の取組をされることを期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。						

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 4年12月14日

協議会名: 鹿沼市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
鹿沼合同タクシー	粟野地域 平成24年4月から、粟野地区、粕尾地区、永野地区、清洲地区の各デマンドを一本化 運行回数 10,256回/年 運賃 100円~400円	新規利用者獲得のため、バスの乗り方教室の実施をおこなった。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	B 目標 12.6人/日 平成30年度 12.5人/日・台 令和元年度 12.2人/日・台 令和 2年度 9.6人/日・台 令和 3年度 8.9人/日・台 令和 4年度 10人/日・台	・事業は計画通りに実施し、利用者も増加したが、目標に達しなかった。 ・夜間の利用も含めて、運行時間の検討が必要。
鹿沼合同タクシー	北押原・南押原 北犬飼地域 運行開始:平成22年11月 運行回数 4,158回/年 運賃 100円~300円	課題を抱えた利用者に向け、地域包括ケアと連携し、高齢者の移動手段の確保を実施した。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	B 目標 16.6人/日 平成30年度 15.7人/日・台 令和元年度 15.1人/日・台 令和 2年度 11.6人/日・台 令和 3年度 12.1人/日・台 令和 4年度 12.76人/日・台	・事業は計画通りに実施し、利用者も増加したが、目標に達しなかった。 ・効率的な運行及び利便性向上のため、運行範囲や目的地の再検討が必要。
鹿沼合同タクシー	松原地区 運行開始:平成23年11月 運行回数 2524.5回/年 運賃100円~200円	路線バスとの乗り継ぎなどを、利用状況をみながら運行した。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	B 目標 13.5人/日 平成30年度 11.4人/日・台 令和元年度 12.0人/日・台 令和 2年度 9.4人/日・台 令和 3年度 6.2人/日・台 令和 4年度 7.5人/日・台	・事業は計画通りに実施し、利用者も増加したが目標に達しなかった。 ・路線バスとの連携を強化し、効率的な運行を検討が必要。
ヘイタク	板荷・菊沢地区 運行開始:平成22年11月 運行回数 2,079回/年 運賃100円~300円	課題を抱えた利用者に向け、地域包括ケアと連携し、高齢者の移動手段の確保を実施した。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	B 目標 18.7人/日 平成30年度 18.1人/日・台 令和元年度 22.4人/日・台 令和 2年度 18.7人/日・台 令和 3年度 17.1人/日・台 令和 4年度 15.24人/日・台	・事業は計画通りに実施したが、地区内の人口減少も進み利用者が減少し、目標に達しなかった。 ・運行範囲が広いと、利便性向上のために、地区ごとの運行時間の設定に係る検討が必要。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

地域包括ケアとの連携や、乗り方教室の実施などによる利用促進の取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月27日

協議会名: 足利市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東自動車株式会社	<p>足利市生活路線バス名草線</p> <p>系統①入名草～東武足利市駅(13.5km)運行回数:1回/日 系統②入名草～足利赤十字病院(19.9km)運行回数:1.5回/日 系統③やすらぎハウス～足利赤十字病院(11.5km)運行回数:0.5回/日 系統④入名草～アピタ(15.1km)運行回数:1回/日</p> <p>運賃 大人(中学生以上):210円 小人(小学生):100円 幼児:無料 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳提示の方:100円 いきいきパスポート提示の方:100円</p>	<p>当該交通サービスは目的ではなく手段であり、どういった目的のためサービスなのかを検討するよう指摘があった。また、マップや時刻表をお店等(目的地)で掲示したり配布したりすることで、利用者の気を引くような仕掛けを工夫してほしいとの指摘もいただいた。</p> <p>そのため、運行事業者と意見交換の場を設け、利用者によりわかりやすい時刻表の改善及び各種通用券の整理を行うこととした。また、乗降調査(OD調査)に加えて、利用者からの要望や移動ニーズ(目的)を把握するために、主要停留所にて市の職員を動員し聞き取り調査を行った。</p>	A 事業は適切に実施された	B <p>・1便あたりの平均利用者数 目標 5.5人以上 (前年度(R2.10.1～R3.9.30)実績 4.1人) 実績 4.8人</p> <p>・収支率 目標 前年比100%以上 (前年度実績 10.2%) 実績 10.5%</p>	<p>目標のうち、「1便あたり5.5人以上」は達成することができなかったが、「収支率前年比100%」は達成することができた。</p> <p>今後は、現在策定中の地域公共交通計画に基づき、収集したデータ等からより質の高い現状分析を行い、利用者の目的に合う交通手段となるよう取組みたい。また、次期ダイヤ改正時には、利用者にとって見やすくなりやすい時刻表の作成を目指したい。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

関係者への働きかけに積極的に取り組み、収支率の目標を達成されたことや、平均利用者数の目標は未達成であるものの前年度と比較し回復傾向にある点を評価する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月16日

協議会名: 栃木県栃木市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千代田タクシー有限会社 栃木合同タクシー株式会社 栃南タクシー株式会社 有限会社大平タクシー 藤岡タクシー株式会社 有限会社都賀タクシー 株式会社新交通 岩舟タクシー株式会社 安全タクシー有限会社	デマンド型交通「蔵タク」 営業区域: 北部エリア・南部エリア 運行日: 月曜～金曜(祝日・12/29～1/3を除く) 運行時間帯: 8時～16時 運賃: 400円	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進・利便性向上のため、SNS、コミュニティFMラジオ、市ホームページ、市広報掲載での情報発信、各自治会やシニアクラブ等への出前講座を積極的に実施するなど、利用の呼びかけを行った。 ・移動目的達成の施策を検討すべきとの評価結果を受け、福祉タクシーの対象とならない市民に対して、福祉部門と連携しながら蔵タクの制度を案内し、蔵タクを用いて外出等ができるように利用促進を図った。 ・本市の福祉部門において、ひとり暮らし世帯や高齢者のみ世帯を訪問し、安否の確認や必要に応じて話し相手、相談相手を行う高齢者ふれあい相談員制度があり、毎月ふれあい通信を配布している。利用者の気を引く工夫を心がけるようにとの評価結果を受け、ふれあい通信に蔵タク利用の案内を掲載し、福祉部門と連携して利用促進を図った。 	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 利用登録者数 目標: 23,000人 実績: 23,298人 利用者数 目標: 200人 実績: 175人 (コロナ前R1: 253.4人) 分析: 新型コロナウイルスによる行動制限により、利用者数が減少したと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な公共交通のためには人口減少を見越して、限りある資源をどのように分配するかという経営的視点が必要である。Withコロナ時代に合わせた、需給のバランスに注視したい。 ・今年度も新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、三密を避けるための乗車制限を実施したことにより、利用者数が減少した。最近は行動制限が緩和される傾向にあるので、乗車制限の見直しを検討していきたい。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

多様な媒体を活用した利用促進や、他部門との協力などの取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
- ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和5年1月18日

協議会名: 真岡市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

事業期間: 令和3年10月1日から令和4年9月30日

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 芳南交通(株) 潮田タクシー(株) (有)二宮タクシー	デマンドタクシー「いちごタクシー」 運行地域: 真岡市全域 運行日: 月曜日～金曜日 運行時間帯: 9:00～17:00 運賃: 300円	<ul style="list-style-type: none"> 待合環境を整備するとともに、実施したアンケートの分析を行い、利便性の高い運行方法を検討していく。 ⇒いちごバスのバス停50か所にベンチを設置し、待合環境を改善した。 利用者や交通事業者等と協働した事業である公共交通サポーター制度を引き続き実施し、安定した運行と公共交通への意識醸成を図る。 ⇒公共交通サポーター制度を引き続き実施し、個人3件、法人2件の協賛を得た。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 【目標】 ①一日あたりの乗車人数 68.1人/日 ②収支率 9.1% 【実績】 ①53.7人/日 ②6.0% ・予約が集中する午前中は、満車での断りが発生していることや、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から1台あたりの乗車定員を4人から3人に減らして運行していることが主な要因と考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> いちごタクシーの満車に対応するため、運行台数の増車を行う。 新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、いちごタクシーの定員制限の解除について検討する。 利用者や交通事業者等と協働した事業である公共交通サポーター制度を引き続き実施し、安定した運行と公共交通への意識醸成を図る。
事業者名 大越観光バス(株)	コミュニティバス「いちごバス」 系統: 真岡(市内循環線: 24.2Km) 運行回数: 18回/日 運賃: 100円	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりや地域活性化の観点から、既存の民間バス路線や真岡鐵道との連携強化を図る。 ⇒民間バス路線との共通バス停ベンチを設置するとともに、公共交通ブックの発行による交通情報提供の一元化を行った。 地域座談会、出前講座、学校での乗り方教室の実施等、広く市民への周知及び利用促進を図る。 ⇒いちごバスの小学生向け夏休み無料乗車キャンペーンを引き続き実施し、利用促進を図った。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 【目標】 ①一日あたりの乗車人数 114.8人/日 ②収支率 10.4% 【実績】 ①113.2人/日 ②9.2% ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、栃木県から2度のまん延防止等重点措置が発令されるなど、コロナ禍における外出控えが影響したと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> SNSやケーブルテレビ、FMもおか、広報もおかを活用し広く市民へ周知するとともに、地域座談会、出前講座、学校での乗り方教室、小学生向け夏休み無料乗車キャンペーンを引き続き実施し、利用促進を図る。

 地方運輸局等における
 二次評価結果
 (関東運輸局)

待合環境の整備や関係者との協働などの取組は評価できるが、乗車人数および収支率の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- 事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。
- 「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月23日

協議会名: 大田原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山和タクシー有限会社	野崎・佐久山地域定路線	【利用促進】 ・市営バス路線・時刻表を15,000部作成し、配布している。 ・市ホームページ・広報に情報を発信している。 ・時刻検索サイト「ナビタイム」「ジョルダン」へ情報提供し、利用者へ調べやすい環境を形成している。	○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 【事業内容】 公共交通空白地域においては、湯津上・黒羽地域区域運行が地域の移動手段として浸透している。 また、公共交通不便地域においては、親園・野崎・佐久山地域区域運行が地域の移動手段として浸透しており、地域の移動手段の選択肢が増えた。	A 【利用者一人当たりの運行経費】 目標値:3,500円/人 実績値:2,134円/人 達成状況:令和3年4月から減便したことにより、運行経費が大幅に改善されたため、目標を達成できた。	【高齢者を対象に】 本市では自家用車での移動が主な交通手段であるが、超高齢化社会を目前にして、高齢者の危険運転防止や、認知症予防を念頭に、市営バスを積極的に利用して、自らが「慣れる」、また「乗る」ことで利用率をアップさせ公共交通を存続させることの大切さを理解してもらえよう普及活動を行う。また、生活支援体制整備事業等の高齢福祉部局の事業に、公共交通担当が参加し、地域の移動ニーズの把握や市民生活に寄り添った移動サービスを検討します。 【観光客を対象に】 市営バスについて、広域バスマップ及び観光マップを活用し、地域外の居住者へ観光周遊を周知して利用促進につなげる。また、デマンド交通の乗り継ぎを併せた利用促進を引き続き図っていく。 【運行経費削減】 デマンド交通において、地域の需要に対して、より利用状況に応じた運行を検討し、経費抑制を図る。
	親園・野崎・佐久山地域区域運行	・路線バスとデマンド交通を乗り継ぐ利用者の運賃を減免する「乗継割引」を継続し実施している。 ・デマンド交通の利用料金において、大田原市営バス及び関東自動車路線バスの定期券、並びに市営バス回数券の適用を継続して実施している。 ・高齢者が運転免許証を自主返納した際、無料で乗車できる「無料乗車証」を発行している。 ・地域の協議体会議に出席し、デマンド交通の周知を図っている。		A 【利用者一人当たりの運行経費】 親園・野崎・佐久山地域区域運行 目標値:3,100円/人 実績値:4,212円/人 達成状況:令和3年4月から親園地区に区域拡大したことに伴う運行経費の増加と、新型コロナウイルス感染症拡大により、地元説明会が開催できなかったことで、利用者数が想定より増えず、目標を達成できなかった。	
	湯津上・黒羽地域区域運行	【経費の圧縮】 ・野崎・佐久山地域定路線において、3便運行していたものを2便に減便した。		A 【利用者一人当たりの運行経費】 目標値:2,200円/人 実績値:2,107円/人 達成状況:学童利用者の安定的な利用もあり、目標を達成できた。	

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

周知活動による利用促進などに取り組み、複数の系統で利用者一人当たりの運行経費の目標を達成されたことを評価する。区域拡大による運行経費増加により、一部の系統で目標が未達成となったが、引き続き運行事業者などと連携した利用促進の検討をされることを期待したい。

第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
- ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月18日

協議会名: 那須烏山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
烏山合同タクシー(株)	デマンド交通南那須地区 運行区域は、南那須地区全域 及び烏山地区の指定施設(市 役所烏山庁舎、那須南病院、 山あげ会館、烏山台病院、水 道庁舎)	令和3年度に策定した那須烏 山市地域公共交通計画施策 「デマンド交通の運行適正化」 に基づき、利用向上策を展開し た。令和4年4月にデマンド交 通回数券制度を導入し、同月 からデマンド交通車内で販売を 開始した。また、同月の市議会 議員選挙での回数券を活用し た利用促進策を展開し利用促 進に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。	C 計画どおり事業を実施した が、コロナ禍による外出自 粛等の要因から利用人数 が思うように伸びず、目標 の収支率への到達等は未 達成であった。 加えて、利用者満足度の 改善も達成できず、満足度 アップに向けて更なる改善 及び利用方法の周知が必 要である。	●収支改善に向けた利用増・ 経費削減に向けた検討。 ●利用者満足度の改善につな がる便数等の運行形態の検 討。 ●デマンド交通と福祉タクシー 等の役割の明確化。 ●運転免許の自主返納者を増 やすための呼びかけ方法の検 討。 ●広域幹線軸である鉄道と、 支線系統であるデマンド交通と の結節強化に向けた検討。
(株)烏山観光タクシー 烏山合同タクシー(株)	デマンド交通烏山地区 運行区域は、烏山地区全域及 び南那須地区の指定施設(市 役所南那須庁舎、保健福祉セ ンター、南那須図書館)	令和3年度に策定した那須烏 山市地域公共交通計画施策 「デマンド交通の運行適正化」 に基づき、利用向上策を展開し た。令和4年4月にデマンド交 通回数券制度を導入し、同月 からデマンド交通車内で販売を 開始した。また、同月の市議会 議員選挙での回数券を活用し た利用促進策を展開し利用促 進に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。	C 計画どおり事業を実施した が、コロナ禍による外出自 粛等の要因から利用人数 が思うように伸びず、目標 の収支率への到達等は未 達成であった。一方、烏山 地区におけるデマンド交通 利用者数の増により、収支 率はわずかながら改善の 傾向が見られた。 利用者満足度の改善も達 成できず、満足度アップに 向けて更なる改善及び利用 方法の周知が必要である。	●収支改善に向けた利用増・ 経費削減に向けた検討。 ●利用者満足度の改善につな がる便数等の運行形態の検 討。 ●デマンド交通と福祉タクシー 等の役割の明確化。 ●運転免許の自主返納者を増 やすための呼びかけ方法の検 討。 ●広域幹線軸である鉄道と、 支線系統であるデマンド交通と の結節強化に向けた検討。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局) 利用促進などの取組は評価できるが、収益率や満足度の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。					

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月 19日

協議会名: さくら市地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
さくらタクシー株式会社	コンタ号・つういんコンタ号 旧喜連川町の全域及び黒須病院(旧氏家町域)	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙(6月)やHPでの広報活動に加え、地域の集会に出向き公共交通を身近に感じてもらえるよう説明を実施した。 また、令和4年3月に新たに公共交通マップを作成し、鉄道駅や公共施設など、市内各施設に配架し、利用促進を図った。 ・12月に利用者アンケートを実施し、利用者からの要望をとりまとめ、継続的な対応が可能か事業者とともに検討している。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>【目標】</p> <p>○コンタ号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を1,000円以下 ・収支率17%以上 ・サービスに対する満足度:75%以上 <p>○つういんコンタ号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を2,100円以下 ・収支率を16%以上 ・サービスに対する満足度:75%以上 <p>【結果】</p> <p>○コンタ号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額:1,406.47円 ・収支率12.80% ・サービスに対する満足度:44.4% <p>○つういんコンタ号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額:4,267.78円 ・収支率7.08% ・サービスに対する満足度:49.4% <p>いずれの目標も達成することができなかった。</p> <p>しかし、コンタ号においては、令和3年4月から、6便から8便へ増便したことにより利用者が約12%上昇した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP等による利用促進を更に強める。 ・サロン事業や地域の集会等へ参加し、デマンド交通やデマンド交通の使い方の周知を行う。 ・さくら市地域公共交通網形成計画を基に、市民の利便性向上に向け、デマンド交通も含めた地域の交通ツールと調整を図る。 ・利用者の要望に対し、対応が可能な項目を検討する。 ・令和5年度末までに地域公共交通計画を策定し、令和6年度の公表に向けて取り組む。
有限会社誠タクシー	うのはな号 旧氏家町の全域	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙(6月)やHPでの広報活動に加え、地域の集会に出向き公共交通を身近に感じてもらえるよう説明を実施した。 また、令和4年3月に新たに公共交通マップを作成し、鉄道駅や公共施設など、市内各施設に配架し、利用促進を図った。 ・12月に利用者アンケートを実施し、利用者からの要望をとりまとめ、継続的に対応が可能か事業者とともに検討している。 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額を1,500円以下 ・収支率13%以上 ・サービスに対する満足度:60%以上 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1回当たりの利用に対する公費負担額:1,753.63円 ・収支率11.14% ・サービスに対する満足度:36.7% <p>いずれも目標を達成できなかった。</p> <p>サービスに対する満足度は昨年度と比較すると改善しているが、ほぼ横ばい。</p> <p>デマンド交通の特性を理解してもらうため、制度周知のほか、増便や増車の可能性を検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙・HP等による利用促進を更に強める。 ・サロン事業や地域の集会等へ参加し、デマンド交通やデマンド交通の使い方の周知を行う。 ・さくら市地域公共交通網形成計画を基に、市民の利便性向上に向け、デマンド交通も含めた地域の交通ツールと調整を図る。 ・利用者の要望に対し、対応が可能な項目を検討する。 ・令和5年度末までに地域公共交通計画を策定し、令和6年度の公表に向けて取り組む。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

利用者の声を聴きながらの周知活動や、公共交通マップの作成・配布などの取組は評価できるが、公費負担額や収支率の目標は未達成となった。

第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。
- ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月27日

協議会名: 小山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大山タクシー株式会社	<p>城東中久喜線</p> <p>系統: 小山駅東口～高専正門</p> <p>距離: 往6.5km、復6.7km</p> <p>1日運行回数: 平日28回 土休日26回</p> <p>運賃: 大人200円</p>	<p>利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室を実施した。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 利用者数234人/日 収支率67% 実績: 利用者数192人/日 収支率38.9% 分析: 利用者については、一部区間が重複する高岳線を令和3年10月1日に増便したため、利用者が流れたものと考えられる。収支率については、人件費及び燃料費の高騰により悪化したものと考えられる。</p>	<p>利用者増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業等に向き、PRを行う。 収支率改善のため、おーバスバス停オーナー、おーバスサポーターを継続して実施する。</p>
大山タクシー株式会社	<p>大谷中央線</p> <p>系統: 小山駅東口～大谷公民館～小山駅東口、他2系統</p> <p>距離: 循環13.0km</p> <p>1日運行回数: 全日26回</p> <p>運賃: 大人200円</p>	<p>利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室を実施した。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標: 利用者数171人/日 収支率56% 実績: 利用者数202人/日 収支率52.5% 分析: 利用者については、令和元年10月より発売している定期券norocaにより、沿線に立地する関東職業能力開発大学の学生の利用が増えているものと考えられる。収支率については、人件費及び燃料費の高騰により悪化したものと考えられる。</p>	<p>利用者増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業等に向き、PRを行う。 収支率改善のため、おーバスバス停オーナー、おーバスサポーターを継続して実施する。</p>

<p>大山タクシー有限公司</p>	<p>土塔平成通り線 系統: 小山駅東口～横倉公民館 距離: 往6.9km、復7.6km 1日運行回数: 全日26回 運賃: 大人200円</p>	<p>利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室を実施した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標: 利用者数167人/日 収支率41% 実績: 利用者数142人/日 収支率37.4% 分析: 利用者については、一部区間が重複する大谷中央線(上記)に、利用者が流れたものと考えられる。収支率については、人件費及び燃料費の高騰により悪化したものと考えられる。</p>	<p>利用者増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業等に向き、PRを行う。 収支率改善のため、おーバスバス停オーナー、おーバスサポーターを継続して実施する。</p>
<p>株式会社 小山中央観光バス</p>	<p>間々田東西線 系統: 光南病院～間々田駅東口～新市民病院、他6系統 距離: 往12.4km、復12.4km 1日運行回数: 平日35回 土休日12回 運賃: 大人200円</p>	<p>利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室を実施した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 目標: 利用者数67人/日 収支率19% 実績: 利用者数59人/日 収支率12.6% 分析: 利用者については、令和元年10月より発売している定期券norocaにより、小山南高等学校の生徒の利用が増えているが目標値の達成には至っていない。収支率については、人件費及び燃料費の高騰により悪化したものと考えられる。</p>	<p>利用者増加に向けて、沿線の学校、商業施設、企業等に向き、PRを行う。 収支率改善のため、おーバスバス停オーナー、おーバスサポーターを継続して実施する。</p>

【凡例】評価 A: 目標の100%以上 B: 目標の85～100% C: 目標の85%未満

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大山タクシー有限公司	デマンドバス 桑絹地区 営業区域: 桑、絹地区 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 大人300円	利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室や説明会を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 便数5便/日 稼働率60% 65歳以上登録人口率 桑25% 絹・大字中久喜50% 実績: 便数3.5便/日 稼働率44.6% 65歳以上登録人口率 桑13.5% 絹・大字中久喜20.0% 分析: 高齢者の介護予防事業であるいきいきふれあい事業が新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になってしまい、利用者、登録者が伸び悩んだものと考えられる。	新型コロナウイルス感染症の行動制限が徐々に緩和され、いきいきふれあい事業が再開されてきているため、乗り方教室や説明会を前年度以上に実施し、利用促進を図る。
大山タクシー有限公司	デマンドバス 大谷中南部・間々田東部地区 営業区域: 大谷中南部、 間々田東部地区 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 大人300円	利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室や説明会を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標: 便数4便/日 稼働率40% 65歳以上登録人口率 大谷中南部30% 間々田東部30% 実績: 便数3.1便/日 稼働率43.5% 65歳以上登録人口率 大谷中南部9.6% 間々田東部10.0% 分析: 高齢者の介護予防事業であるいきいきふれあい事業が新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になってしまい、利用者、登録者が伸び悩んだものと考えられる。	新型コロナウイルス感染症の行動制限が徐々に緩和され、いきいきふれあい事業が再開されてきているため、乗り方教室や説明会を前年度以上に実施し、利用促進を図る。

<p>大山タクシー有限会社</p>	<p>デマンドバス 寒川・生井地区</p> <p>営業区域：寒川、生井地区</p> <p>運行日：月曜～金曜</p> <p>運行時間帯：8時～17時</p> <p>運賃：大人300円</p>	<p>利用が伸び悩んだ理由を分析すべきとの評価結果を受け、利用者にアンケート調査を実施した。また、乗り方教室や説明会を実施した。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 目標：便数2便/日 稼働率35% 65歳以上登録人口率 寒川生井30%</p> <p>実績：便数1.4便/日 稼働率17.5% 65歳以上登録人口率 寒川、生井28.5%</p> <p>分析：高齢者の介護予防事業であるいきいきふれあい事業が新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になってしまい、利用者、登録者が伸び悩んだものと考えられる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の行動制限が徐々に緩和され、いきいきふれあい事業が再開されてきているため、乗り方教室や説明会を前年度以上に実施し、利用促進を図る。</p>
-------------------	---	--	--	--	--

【凡例】評価 A: 目標の100%以上 B: 目標の85～100% C: 目標の85%未満

<p>地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)</p>	<p>アンケート調査による原因分析や乗り方教室による周知活動などの取組は評価できるが、利用者数や稼働率の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
--	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月25日

協議会名: 日光市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日光線通運㈱	日光市デマンド交通 ・運行日: 毎日 ・運行時間帯: 7~19時 ・運行地域: 小来川地区 ・車両及び台数: 10人乗りワゴン車1台 ・運賃: 1回300円	8~9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和4年8月1日~9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進を図った。 交通安全教室の機会を利用し参加者に利用のご案内や免許証自主返納者等へ個別に利用案内を行い、新規利用者への周知を実施した。	B 新型コロナウイルス感染症により、高齢者向け交通安全教室が開催できず、周知活動が充分にできなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	A 目標利用者数R6年度までに1,050人対し、1,408人となり目標を上回った。	新型コロナウイルス感染症の影響により、個別の教室等での案内ができなかったが、利用促進月間でのPRでは、多数の人からの問い合わせがある。利用方法など十分に周知されていない点もあるため、引き続き、周知活動を行っていく。合わせて、公共交通への理解促進も行う。
日光線通運㈱	日光市デマンド交通 ・運行日: 毎日 ・運行時間帯: 7~19時 ・運行地域: 猪倉地区 ・車両及び台数: 10人乗りワゴン車1台 ・運賃: 1回300円	8~9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和4年8月1日~9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進を図った。 免許証自主返納者等へ個別に利用案内を行い、新規利用者への周知を実施した。	B 新型コロナウイルス感染症により、高齢者向け交通安全教室が開催できず、周知活動が充分にできなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	C 目標利用者数R6年度までに1,800人対し、1,485人となり目標を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、個別の教室等での案内ができなかったが、利用促進月間でのPRでは、多数の人からの問い合わせがある。利用方法など十分に周知されていない点もあるため、引き続き、周知活動を行っていく。合わせて、公共交通への理解促進も行う。
日光線通運㈱	日光市デマンド交通 ・運行日: 毎日 ・運行時間帯: 7~19時 ・運行地域: 落合地区 ・車両及び台数: 10人乗りワゴン車1台 ・運賃: 1回300円	8~9月を「デマンドバス利用促進月間」とし、利用料金300円のところ利用促進月間中(令和4年8月1日~9月30日)に限り100円とし、デマンドバスの利用促進を図った。 免許証自主返納者等へ個別に利用案内を行い、新規利用者への周知を実施した。また、地域の要望により停留所を増設した。	B 新型コロナウイルス感染症により、高齢者向け交通安全教室が開催できず、周知活動が充分にできなかったため、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった	C 目標利用者数R6年度までに700人対し、611人となり目標を下回った。新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、個別の教室等での案内ができなかったが、利用促進月間でのPRでは、多数の人からの問い合わせがある。利用方法など十分に周知されていない点もあるため、引き続き、周知活動を行っていく。合わせて、公共交通への理解促進も行う。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>利用促進や周知などの取組は評価できるが、複数の地区で利用者数の目標は未達成となった。しかし、一部の地区では前年度実績を大幅に上回り、目標を達成したことを評価する。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月20日

協議会名: 下野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
石橋タクシー(株)	デマンド交通「おでかけ号」 営業区域:下野市全域 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:午前8時～午後6時 運賃:大人(中学生以上)300円・小学生200円・未就学児無料(ただし、保護者同伴を要する)	令和3年10月から試験運行を開始した1市2町(下野市・上三川町・壬生町)デマンド交通相互利用の本格運行移行(令和4年4月)に際し、乗継スポットを新設し利用環境の向上を図った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標:デマンド交通の1日平均利用者数 63.7人 実績:67.2人 分析:運行エリアや運行形態の大幅な見直しなど効率的な運行手法の取り組みの効果によると考えられる。	「下野市地域公共交通計画」(令和3年3月策定)に基づきデマンド交通の運行形態を変更し、利用者数の増加など一定の成果が見られるが、毎年実施予定の利用者アンケート結果などから引き続き検証し、必要に応じ見直しを行うなど更なる利用環境の向上を図る。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	乗り継ぎスポットの新設による利用環境の向上に取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月26日

協議会名: 茂木町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>(株)柏タクシー</p>	<p>茂木エリア</p>	<p>実利用者数の減少に伴い、前回の事業評価時において目標の20,600人に対し、実績が16,251人だったことから、収支状況の改善を目指し、目標として20,000人を設定した。</p>	<p>A 計画どおり事業は実施された</p>	<p>C 【目標と実績】(目標年度: 令和8年度) ①運行サービスにおける利用者満足度90%以上に対し、85% ②めぐるくんの利用実績22,000人に対し、17,261人 ③めぐるくんの収支率18.0%に対し、12.0% ④公共交通(めぐるくん)に係る町負担額28,000千円に対し、30,787千円 【目標を達成できなかった理由】 ①1便減便(アンケート結果から)が要因と考えられる。 ②③④新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛が大きな要因と思われる。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の終息後に向けたお出かけ促進事業・デマンドを活用した町外観光誘客事業を検討していく。 ・75歳以上の運転免許自主返納者への割引制度等拡充及び広報の強化を行い、利用の多い年代である高齢者を車からめぐるくんへの利用転換を促し、新たな需要喚起するとともに、高齢者の安全、安心な生活づくりを図る。 ・平成30年4月より導入した回数券のPR強化や、目的施設追加のPRを引き続き行い、利用者の利便性の向上や需要増を図る。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>回数券のPRにより需要増を図るなどの取組は評価できるが、利用者数などの目標は未達成となった。いずれの指標も目標値には達しなかったが、前年度より利用実績が改善されている点は評価できる。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。</p>
--------------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月10日

協議会名: 市貝町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)柏タクシー	市貝町全域、芳賀町祖母井地区、芳賀町上延生ロマンの湯、茂木町茂木さとう耳鼻咽喉科クリニック、益子町芦沼青木医院、高根沢町上高根沢ふれあいセンター	前回の事業評価において、目標を達成できていない点があったと評価したが、利用実態を常に注視し、継続して利用者の利便性向上に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 利用者数目標11,134人に対し6,639人であった。また、利用者登録数目標2,400人に対し、2,139人であった。特に利用者数については、新型コロナウイルス感染症の拡大により外出を控えたことが影響し、前年度に引き続き減少している状況である。	運転免許自主返納者に本デマンドタクシーの回数券を交付する等、新規利用者の確保、利用頻度の向上に努める。

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利便性向上に努めるなどの取組は評価できるが、利用者数および利用者登録数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間に対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
-------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月 20日

協議会名: 益子町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
七井タクシー	デマンド型交通「ひまわり号」 営業区域: 七井地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 300円	町、商工会、タクシー事業者との意見交換を定期的に行い、利用者の多角的な目的達成のための移動手段として、利用者の意見や運行の際の注意点・問題点などを3者間で共有した。 今後も利用者の利便性向上を図り、利用者を増やしていくための取り組みについて意見交換を続けていく。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 目標: ・利用者40人/日 ・登録者3,500人	・高齢者単独世帯への周知として、地域の民生委員管轄課と連携していく。一般向けには広報誌やホームページを活用して利用者の増加を図っていく。 ・高齢利用者のトラブル等については、福祉関係課や高齢者支援関係課とも連携し、高齢利用者のフォローアップを図り利用を増やしていく取り組みを行う。 ・継続して安定した事業運営をしていく。
益子タクシー有限会社	デマンド型交通「ひまわり号」 営業区域: 益子地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 300円		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	実績: ・利用者46.6人/日 ・登録者3,647人	
新光タクシー有限会社	デマンド型交通「ひまわり号」 営業区域: 田野地区 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 300円		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	分析: 平成24年10月の運行開始から10年を経過し、町民の方々にも広く認知いただけるようになった。新型コロナウイルスの影響により利用者の減少を想定していたが、目標数の達成ができた。利用登録者数も目標を上回り、免許返納の普及などによる影響と考えられる。	

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	関係者間での意見交換による運行改善に取り組み、利用者数および登録者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き積極的な意見交換およびそれを元にした改善に取り組まれることを期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月23日

協議会名: 壬生町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
野口タクシー(有)	事業名: 壬生町デマンドタクシーみぶまる運行事業 運行区域: 壬生町全域・ゆうがおパーク(下野市) 運行日: 月～金(土・日・祝日、年末年始運休) 運行時間: 8～16時 1時間/便 運行本数: 1日9便 運行本数: セダン型タクシー2台 運賃: 中学生以上300円、小学生100円、未就学児無料	<ul style="list-style-type: none"> ・R4年3月に公共交通計画を策定し、掲げた目標を達成できるよう事業実施に着手した。 ・昨年に引き続き、デマンドタクシー事業の周知・案内を行い新規利用者の獲得やリピーターの創出に努めた。 ・運行協力事業者との話し合いの場を設け、デマンドの運行体制の見直し等調整を行った。 ・利用者の増加や利便性を図るため、運行区域を一部変更し、町外のスポットを1か所(下野市)に新設した。 ・利用促進を図るべく1市2町(下野市・上三川町・壬生町)のデマンド相互利用運行を開始し、1枚の申込用紙で各市町のデマンド申込を同時に行う制度を導入した。これにより各市町それぞれの申込が不要となり、利用者にとって広域での利用がより身近になった。 	A 事業は計画通り適切に実施された。	<ul style="list-style-type: none"> ・目標①(登録者数): 達成 登録者数目標5,612人/年に対し、5,919人/年であった。 ・目標②(利用者数): 未達成 利用者数目標7,344人/年に対し、7,124人/年であった。 ・目標③(運転免許返納者数): 達成 返納者数目標80人/年に対し、95人/年であった。 <p>目標①及び③は、それぞれ達成しており、特に目標①については、今年度より開始した1市2町のデマンド相互利用申込により登録者数が増加傾向になった。しかし、利用者は目標値に届かず、昨年度の実績7,193人も下回り利用者が伸び悩み結果となった。背景には、収束しない新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止措置等の影響も大きかったと見受けられる。コロナ禍でも人の動きは以前より多くなっている印象だが、利用者の外出機会が減少していることが想定され、利用者増加及び安定にはもう少し時間を要すると考える。</p>	令和4年度より1市2町それぞれの交通利用促進の一環として始めたデマンド申込のワンストップ手続きは今後も継続するとともに、本町のデマンド事業の周知も継続して行い、高齢者だけでなく幅広い世代に利用いただけるよう努める。また、広域連携事業も利用者により便利なサービスと認識してもらえよう各市町と調整し新たなツールとして提供するために改善等を検討する。 ウィズコロナやポストコロナを考慮し、利用しやすい環境の整備や日常生活以外の活用方法の提供等利便性の高いサービスとして構築できるよう状況に応じた事業の実施及び、関係機関との連携を密に図る。 また、策定した公共交通計画の目標をそれぞれ達成できるよう、事業実績を分析を行い改善等に努める。
壬生観光自動車(有)					
壬生タクシー(有)					

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

運行体制の見直しや乗降スポットの新設などにより利便性向上に取り組まれ、登録者数および運転免許返納者数の目標を達成されたことを評価する。利用者数の目標は未達成となったが、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。
・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5(2023)年1月25日

協議会名: 上三川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
関東交通株式会社	<p>上三川町デマンド交通</p> <p>名称:「かみたん号」 営業区域: 町内全域 町外9施設</p> <p>運行日: 平日 運行時間帯: 8時から18時まで 運賃: 大人町内300円 大人町外450円 小学生 150円 未就学児 無料</p>	<p>近隣市との連携による今後の施策の検討を進められたいとの評価について、1市2町(下野市・上三川町・壬生町)で相互利用の実績等の情報共有を始めるとともに、各世帯に配布された公共交通時刻表に1市2町共通の相互利用のお知らせを記載した。</p> <p>目的を明確にし、目的達成のための施策を多角的に検討されたいとの評価について、交通計画の改訂により明確にした。高齢者のみならず自動車免許を持たない若者等の移動手段の確保も重要と捉え、高齢者に加え10代にもアンケートを実施した。結果10代の若年層には認知度が低いことから、車両ラッピングをして往来で目を引いたり、学校を介し児童生徒へ車両を模した折り紙を添付してPRチラシの配布を行った。また、アンケートの結果から年代を問わず土曜日運行の要望が多いことが分かった。</p>	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	<p>目標: 15,200人以上利用 実績: 15,018人</p> <p>目標: 収支率20.0%以上 実績: 19.1%</p> <p>分析: コロナの感染拡大が見られている月に利用者数運行収支率とも低下することから、コロナによる外出控えによるものと考えられる。</p>	<p>1市2町間で更なる相互利用の促進に向けた取組みを検討していく。</p> <p>土曜運行の検討を行う。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>ターゲットを明確にした周知活動の取組は評価できるが、利用者数および収支率の目標はわずかに目標値に届かず未達成となった。引き続き事業者と協力し、利用者のニーズに合った運行を検討していただきたい。</p> <p>第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
-------------------------	--

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月26日

協議会名: 野木町公共交通活性化会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>・小山合同タクシー㈱ ・栴野木タクシー</p>	<p>【デマンド交通「キラ輪号(愛称)」】 運行区域:町内全域 運行日:月曜～金曜(土・日・祝日、8月13日～16日、年末年始運休) 運行時間帯:8時～17時 運行本数:16本(午前8本、午後8本) ※令和4年9月末まで 運行車両:セダン2台、ワゴン1台 運賃:利用券(大人[中学生以上]300円、小人[小学生以下]200円、75歳以上200円、3歳未満無料)</p>	<p>・前回の事業評価結果を踏まえ、利用者アンケート及び未利用者アンケートを実施した。 ・上記アンケートの集計結果より利用者や未利用者が感じたデマンドタクシーに対する不満点を改善するため、タクシー事業者及び業務委託先と打合せを行い意見交換し、要望のあった難聴者用の代理連絡カードの作成、小学生単独乗車を可能とした。 ・パンフレットを医療機関、喫茶店にも置くなど配架場所を増やした。 ・敬老事業(郵送)におけるパンフレットの配布(4,000部)を行った。 ・若者世代への周知を図るため、成人式におけるパンフレットの配布(250部)を行った。 ・町広報誌において、デマンド特集記事(令和3年10月号)を組み、登録及び利用の促進を図った。 ・ふるさと納税の返礼品にデマンド利用券を登録し、町外の家族が町内の親への免許返納を後押しするきっかけ作りを創出した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A</p> <p>・目標数値である利用登録者数の2,850人に対して、本年度の利用登録者数は2,920人(令和4年9月末までの総数)と目標を達成出来た。 ＜利用登録者の推移＞ H21年度(※11月～実証(試行)運行当初):1,223人、H22～25年度:250人前後、H26年度:174人、H27年度:149人、H28年度:157人、H29年度:153人、H30年度:144人、R1年度:169人、R2年度:151人、R3年度:168人、R4年度:171人(※各年10月～翌年9月末の合計) ・目標数値である1日平均利用者数34.8人/日に対して、約36.6人/日(令和3年10月～令和4年9月末)であり、目標を達成出来た。 ＜1日平均利用者の推移＞ H21年度(※11月～実証(試行)運行当初):23.8人/日、H22年度:29.3人/日、H23年度:31.8人/日、H24年度:34.5人/日、H25年度:36.8人、H26年度:35.0人/日、H27年度:37.5人/日、H28年度:38.9人/日、H29年度:37.4人/日、H30年度:35.6人/日、R1年度:38.3人/日、R2年度:34.6人/日、R3年度:33.5人/日、R4年度:36.6人/日(※各年10月～翌年9月末の合計平均) ・65歳以上の利用者が全体の91.4%(総利用者8,836人に対し8,079人)であった。また、利用者アンケートの回答者166名のうち、送迎を頼める人がいない方が34.3%(57名)でそのうち、よく使う移動手段がデマンド交通と答えた方が27名と半数程度であることから高齢者等の交通弱者対策のための「安全かつ安心して移動できる「地域の足」の確保」として事業目的を果たしていることが伺える。</p>	<p>・今後も、アンケート調査により、利用者のニーズ等を把握する。その結果を受け、声の大きい要望かつ効果が大いなものについてはその実現に向けて調整を行う。また登録及び利用の促進を図るため、広報による特集ページの掲載やパンフレット等による周知等を行う。 ・定量的な目標については、さらなるPRや利用者要望に寄り添ったデマンド交通になるように努め、また今年度から調査・策定を行っている「地域公共交通計画」の中で町内の公共交通の再構築及びよりよいデマンド交通の運行について検討を行い、その効果を加味した目標値を設定するものとする。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>周知活動や利用者の要望の実現に取り組み、利用登録者数および平均利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き、周知活動や利便性向上の取組をされることを期待したい。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。</p>
--------------------------------	---

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月7日

協議会名: 那須町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
那須合同自動車株式会社	北部運行区域 (黒田原行き)	令和4年2月の事業評価結果を受け、コロナ禍で利用促進が難しい状況下においても、「きっかけづくり」は継続的に実施する必要があるという観点から、小学生を対象としたバスの乗り方教室の開催を企画(10月に2校にて開催)した。	A	<p>(1)年間利用者数8,000人の目標値に対して、本年度の年間利用者数は6,726人であり、目標を達成することができなかった。本年度は、国内における新型コロナウイルス感染症拡大の勢いは一時期よりは収まりつつあるものの、コロナ前の利用者数まで回復していない。ただし前年度(6,675人)よりは増加している。</p> <p>(2)車両1台当りの利用者数2.00人/台の目標値に対して、本年度は1.71人/台であり、指標(1)と同様にコロナ前の利用者数まで回復しなかった。ただし、前年度(1.66人)よりは増加している。</p> <p>(3)民間路線バス・那須町デマンド型乗合交通の乗り継ぎ割引券発行について、本年度は実施を予定していなかった。</p>	国内における新型コロナウイルス感染拡大の勢いは一時期よりは収まりつつあるものの、コロナ前の利用者数まで回復していない。今後も「移動制約者の日常生活の足の確保」を第一に考え、感染予防活動の継続を前提に現在の運行サービスを維持する。長期的な視点の利用促進に向け「バスブックの配布」及び「きっかけづくりのイベント」は継続的に実施し、来年度の目標値である年間利用者数8,100人、車両1台当りの利用者数2.00人の達成を目指す。 なお、デマンド型乗合交通については、令和4年3月に策定した那須町地域公共交通計画より、一般タクシーサービスの活用も視野に入れた改善策についての検討、公共交通と助け合い交通の役割分担に関する協議を目的としたWGを設置し、一般旅客自動車運送事業との共存を前提とした輸送手段の導入を検討する。
	北部運行区域 (菅間記念病院行き)				
	北部運行区域 (広谷地行き)				
	南部運行区域 (黒田原行き)				
	南部運行区域 (菅間記念病院行き)				

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

「那須町バスブック」の配布や「バスの乗り方教室」などの利用促進の取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。
- ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5(2023)年1月24日

協議会名: 塩谷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社	塩谷町デマンド交通「えかんべ号」 営業区域: 塩谷町全域及び一部の町外施設 運行日: 月曜～金曜(祝日、お盆、年末年始は除く) 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 町内500円、町外800円(小学生、75歳以上高齢者、障害者 町内300円、町外400円・未就学児 無料)	「引き続き利用促進を進めて頂きたい」との評価結果を受け、広報啓発活動による利用促進の取組を実施した。また、「どういった目的のためのサービスなのかを今一度明確にしたうえで目的達成のための施策を多角的に検討していただきたい」との助言については、地域の高齢者サロンにおいてデマンド交通を利用した参加が容易となるよう予約支援の協力をいただき、高齢者の外出促進を図っている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。 指標①: 1日あたり平均利用人数 ・目標値: 22.5人/日 ・実績値: 25.6人/日 指標②: 1運行あたり平均乗車人数 ・目標値: 2.5人/回 ・実績値: 1.6人/回 達成できなかった指標②については、特定の病院運行以外の平均乗車人数が低い状況である。	・特定の病院以外の平均乗車人数が低い状況については、目的地が多様化しているため、一律に相乗りを促進することは困難な部分があるが、極力配車の調整を行うよう努めるとともに、利用者への理解促進のため、高齢者や小中学生に対する啓発イベントを実施するなど、周知活動を実施し、持続可能なサービスとなるよう改善していく。
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	広報啓発活動による利用促進や、外部に協力を仰ぎ高齢者の積極的な外出促進に取り組み、1日あたり平均利用者数の目標を達成されたことを評価する。1運行あたり平均乗車人数の目標は未達成となったが、引き続き運行事業者などと連携した利用促進や利便性の高い運行となるよう、検討をされることを期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・アフターコロナ、ウィズコロナを見据え、(一度中断された)利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。				

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月 26日

協議会名: 矢板市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)矢板ツーリング	矢板市デマンド交通 営業区域: 矢板市内(コーナ 矢板・玉田地区を除く) 運行日: 月曜～土曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 大人(中学生以上)片道 500円/往復800円 小学生・高齢者(65歳以上)・ 障がい者片道300円/往復50 0円 とまなりパス片道200円/往復 300円 未就学児 無料	・デマンド交通認知度アップの ため、料金が割引になるとま なりパスの出張申請や高齢者や 民生委員向けに職員出前講座 を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。	目標 ・公共交通の利用者数 (1日当たり)75人以上 ・広告等掲示申込件数 8件/年以上 実績: ・公共交通の利用者数 (1日当たり)69.5人 ・広告等掲示申込件数 3件/年 いずれの目標も達成してい ないが、運用当初に比べ利 用者は増加している。	・1日当たりの乗車人数は運用 当初に比べ増加している。(資 料5参照) 引き続き、デマンド交通利用者 増加のため、料金が割引にな るとまなりパスの出張申請や高 齢者や民生委員向けに職員出 前講座を実施することにより、 更なる認知度アップを図る。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	とまなりパスの出張申請や職員出前講座などの利用促進に取り組まれたことは評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・事業者と自治体との間で対話しながら、路線の再編やダイヤ、運行方法の見直しの議論を行い、周辺環境や行動特性の変化などに対応していただきたい。 ・「地域」と「事業者」と「行政」の三者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。
---------------------------------	--